

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数制限のある場合は、句読点や符号も一字と数えます。)

キキは、魔女として独り立ちするために、コリコの町へきて、宅急便の仕事を始めました。

とんとんとん。

店の戸をたたく音がしました。二階にいたキキがいそいでおりていくと、戸口に、女の子がひとり立っていました。くるくるとまるまったこい茶色の髪がやさしく顔をつつみ、うすいピンクのセーターがよくにあっています。細い足には、ひざまでの白いブーツが光っていました。キキには女の子の姿が、まるで空中に浮いているようにまぶしく見えました。

「あっ、い、いらっしやいませ」

キキはすっかりあがって、ことはがのどからよくでてきません。自分と同じぐらいの年のお客さんは、はじめてのことだったのです。

女の子もキキを見ると、「瞬ふつと息をすいこみ、目をふせると、

① 同じようにこぼれをすまらせました。

「あたし、あっ、あの……」

「おとどけものですか？」

キキは、すこし気をとりなおしていいました。

「なんでももっていつてくださるってきいたから。あなたが運んでくださるの？」

女の子はこわばった顔に笑いをうかべて、首をかしげました。

「ええ、ちゃんと。ご心配はいらないわ」

「そう」

女の子はうなずいて、黒い目をきらりと光らせると、わざとらしくゆつくりとまばたきをしました。キキに見せびらかすように念をいれてすましているふうにも、見えました。

「とどけていただきたいの、だけど……ちよつと秘密なの」

「秘密？」

キキはまゆをよせてききかえました。

「でも、けっしてわるいことなんかじゃないわよ」

女の子はあごをしゃくって、キキをななめに見あげました。それから片手をあげて入口の柱によりかかりました。セーターのえりもとに、細い銀色のブローチが光っているのが見えました。

「贈りものとどけてほしいのよ、アイ君にね。きょうは彼のおたんじよう日なのよ。十四歳になったの。いいでしょ」

女の子は、彼のたんじよう日を自分でつくったみたいにじまんしていました。

(いいでしょ、って……なにがさ)

キキは A 口の中でつぶやきました。女の子は、いいつつづきました。

「でもね、あたしからの贈りものだったこと、いわないでほしいの」
「あら、どうして？」

キキはすこしいじわるい声できました。

「どうしてっても……アイ君とは小さいときっから知ってるのよ。だから今でも私のこと、ちっちゃな女の子ぐらいにしか考えてくれないの。」

② あたしもう十三になったのに……」

「それだから秘密にするってわけ？ へんね」

女の子はキキを見あげて、ほころしげにふつと笑いました。

「あなたわかんない？ こんな気持ち？」

キキは、ますますいらいらしてきました。

「まさか、贈りものって、へんなもんじゃないでしょうね。あけたらカエルがとびだすとか、そういうの、あたし、おことわりしたいのよ」

「ふふふ、③ あなたたつて……」

女の子はおとなっぽく低い声でまた笑いました。

「魔女ってきいていたけど、何も知らないのね。同じぐらいの女の子はみんな、そういうことして遊ぶものだって思ってるの？」

「そんな……」

キキは **B** にらみました。すると、女の子はすずしい顔で、長い髪をかきあげ、その手をスカートのポケットにつっこんで、

「あたし、おこづかいぜんぶつかって、アイ君とおそろいの万年筆買ったの。ほら、見て」

と、銀色の万年筆を一本出し、同時にセーターのえりをめくって、もう一本の万年筆が内側にささっているのを見せました。キキが **□** と

思ったのは、万年筆のクリップだったのです。

「こういうの、肌身はなさず、つていう持ちかたなの。おそろいとき

のね。ちよつとはやってるのよ」

女の子はまたじまんたつぷりに肩をつんともちあげました。

キキは、あつさり「そうなの」つていおうとしました。この人はお客

さまです。「わかりました」と品物をとどければいいのです。ところが、

④ 口をあけたら、こんなことばがとびだしてしまいました。

「それで、どうしておそろいってことになるの。アイ君って人は、あなたからの贈りものだったことも知らないのに」

「そうよ、⑤ でもあたしは知ってるもの」

キキのせいっぱいとげのあることばなんて、あつさりす通りです。それどころか女の子は、どこかを見つめてうっとりしているではありませんか。

「すてきな贈りものなんだから、自分でわたせば？ なんでもないじゃない」

キキは追いかけるようにいいました。

「だってあたし、はずかしいんですもの」

女の子はまたゆつくりとまばたきました。それは⑥ はずかしいのがとてもいい気持ちとでもいつているふうでした。キキは、この自分と同

じ年の女の子が、ずつとおとなに見えて、ふいに胸をおされたようなシヨックを感じていました。

「はずかしいだなんて、へんね」

キキはまた、いいました。

「あら、あなた、⑦ そういう気持ち、まだわからないの？」

女の子はうつすらほえんで、キキをあわれんでいるみたいです。

キキは負けまいとして、**C** いいかえました。

「アイ君がどう思うか心配なのね、もしかしたらめいわくつてこともあるし……ね。あたしだって、わかるわよ、それぐらい」

「あら、そんな心配してないわ。あたし、ちよつとかくしたいだけなの。秘密っぽくしたいだけなのよ、ふふふ」

キキは女の子を **D** じつと見つめました。このきれいなピンクのセーターの下には、ずいぶんやっこしい気持ちがかくれているんだとおどろいてしまったのです。ふつうの女の子って、⑧ みんなこうなのかしら……。キキはちらりと、とんぼさんがいったことばを思い出していました。

(あたしってやつぱり、女の子にはみえないんだ……)

(角野栄子「魔女の宅急便」による)

問一 **A** **D** にあてはまることばの組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア A いらいらして B かつとして C いそいで
D あらためて
イ A かつとして B いらいらして C いそいで
D あらためて
ウ A いらいらして B かつとして C あらためて
D いそいで
エ A いそいで B かつとして C いらいらして
D あらためて

問二 ——線部①「同じようにことばをつまらせました」とありますが、二人がことばをつまらせた共通の理由を、次のようにまとめました。

A にあてはまることばを、文中から十字でぬき出して答えなさい。
たがいに相手が **A** とは思わなかったの、とまどつてしまつたから。

問三 ——線部②「あたしもう十三になったのに……」とありますが、この女の子は、『十三になった』ということばをどういう意味で使っているのですか。その意味として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ままごと遊びやおにごっこなどの幼い遊びは、もうしない年ごろになったという意味。
イ 成長した女性として、恋をしてもおかしくはない年ごろになったという意味。
ウ 親を頼らなくても、一人で一人前のことができる年ごろになったという意味。
エ 他人ときちんとした大人同士の付き合いができる年ごろになったという意味。

いつ排除されるかわからない不安がつきまといまいます。不安になるから、ますます固まって一緒にいる。

学校の先生の立場から見ると、「あの子たちはいつも一緒にいてすごく仲がいいんだな」なんて思える子どもたちの集団でも、よくよく話を聞いたり、様子をうかがってみると、じつは非常に緊張した状態でいつも一緒にいるという場合があります。もちろん別に仲が悪いわけではなくて、一緒にいて楽しいこともあるのだけれども、いつのまにか「そこにいないと不安になるから、陰口をたたかれるのが嫌だから一緒にいる」という状態におちいつている可能性もあるのです。(エ)

③その発展形といえるかもしれないのですが、最近私がちよつと気になっっているのが「携帯メール」を介した(使った)コミュニケーションです。

とりたてて用事もないのに、しょつちゅうメールのやりとりをしている人がいますね。

メールを送ったら、どれぐらいすばやく「※即レス」してくれるかで、相手の友情や愛情を測ってしまう人も多いようです。返信が遅れたりすると、「なんですぐ返してくれなかったの?」「○○君の私への気持ちって、その程度だったの?」となるわけです。

これはじつは、非常に心が休まらない状態をお互いに作りあつてしまっていることになりはしないでしょうか。

今までもやもやと不快だったことが、こういうキーワードを与えられることでスッキリすることがあります。

(菅野 仁「友だち幻想」による)

※ 贖罪…罪を償(つぐな)うこと。

荒地に放す…ここでは、「神にささげる」意味。

憎悪…激しい憎しみ。

猜疑心…人をそねみ、疑う心。

転嫁…自分の罪科・責任などを、他人になすりつけること。

対象…ここでは、「個人や集団」の意味。

矛先…ここでは、「自分への非難や攻撃」の意味。

第三者…ここにいない、私とあなた以外の人のこと。

即レス…「即」＝すぐ、「レス」＝返事・返信。

問一 [A] [C] にあてはまることばの組み合わせとして、最も

適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア A まず B けれど C ところ

イ A さて B そして C だから

ウ A まず B だから C そして

エ A さて B けれど C さらに

問二 線部①「排除する」とは「とりのぞく」という意味ですが、具体的にはどうすることですか。これより後の文中から、十字以上十

五字以内でぬき出して答えなさい。

問三 線部②「新たな不安を引き起こしがちなのです」とありますが、その結果どうなるといっていますか。あてはまることばを、文中から七字でぬき出して答えなさい。

メールを出したほうは、返事が遅いと不安になる。受けるほうは、即レスをしなければならぬというプレッシャーがかかっている。そしてお互い、「友だちなのだから、あるいは付き合っているのだから、毎日メールのやりとりをしなければならぬ」ということになる。

本当は幸せになるための「D」や「E」のはずなのに、その存在が逆に自分を息苦しくしたり、相手も息苦しくなっていたりするような、妙な関係が生まれてしまうことがあるのです。

私はそれを「同調圧力」と呼んでいます。

「同調圧力」という言葉を私の研究室のゼミで使ったとき、教え子の女子学生がこう言いました。「先生、私の高校時代は、まさに「同調圧力」に悩まされ続けた三年間でした!」

——とにかくいつも一緒に行動していきやいけない雰囲気があつても、それがとても重荷だった。抜け出すにも抜け出せないし、距離を少しでもとろうとすると「なんか冷たい」とか、「今までとちよつと違う」などと言われ、いついじめの対象になるかわからない。距離をとって孤立するのも怖い。そんな毎日——だったのだそうです。それが、大学に入つてかなりの程度解放されて、「人は人、自分は自分」という雰囲気が出てきたので、とても楽になったそうです。

「同調圧力とどう折り合いをつけるかが私のテーマだったんだと、いまはつきりとわかりました」と、彼女は長年の胸のつかえがとれたように言いました。

問四 次の一文は、元々文中にあつたものです。この一文があつた場所として、最も適当なものを文中の(あ)～(え)から選び、記号で答えなさい。

お父さん方なら、自分の役目が済めば「じゃ、また」とすぐ帰るそうなのです。

問五 [] にあてはまることばとして、最も適当なものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア 不安でたまらない

イ 自分だけ知らないことが出来る

ウ いつ排除されるかわからない

エ 何を言われるかわからない

問六 線部③「その発展形といえる『携帯メール』を介した(使った)コミュニケーションです」とありますが、「携帯メール」を介したコミュニケーションが、その場にはいない人の悪口を言う話と共通する点を、次のようにまとめました。[A]には三字で、[B]には五字で、それぞれ文中からぬき出して答えなさい。

いつも [A] しないと、[B] が薄いと思われてしまうのではな

いかと不安になる点。

問七 「D」と「E」にあてはまることばの組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 友だち・親しさ

イ 携帯・手紙

ウ 仲間・学校

エ 先生・友だち

問八 この文章の内容に合うものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア その人がいない間に、友だちの悪口を言うのはよくないので、すぐに改めるべきだ。
- イ 携帯電話で、相手からのメールに即レスできないようでは、友達とはいえない。
- ウ いつも一緒にいるのは、悪口を言われたくないからで、仲が良いからではない。
- エ 一見仲の良い集団が、実は互いに心が休まらない状態を作っている場合がある。

問九 この文章は大きく二つのまとまりに分けられます。後半はどこから始まりますか。その初めの五字を、文中からぬき出して答えなさい。

- 3 次の①～⑤の文の□にあてはまる動物名を、ひらがなで答えなさい。

- ① とびが□を生む
- ② 立つ□あとをにごさず
- ③ □も歩けば棒にあたる
- ④ □に小判
- ⑤ 虎の威を借る□

- 4 次の①～⑤の文の——線部は、あとのア～エの文のどの用法と同じですか。最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度使ってもかまいません。

- ① お客様は新幹線で帰られます。
 - ② この本は多くの人に愛された。
 - ③ 思い出されるのは、楽しかったことばかりです。
 - ④ このぐらいの荷物なら、まだ車に載せられる。
 - ⑤ いたずらをして母にしかられた。
- ア 母の病気が案じられる。
 イ 易しい問題だったのですぐに答えられた。
 ウ 先生が注意点を説明された。
 エ バスの中で足を踏まれた。

- 5 次の①～⑤の文の——線部をつけたカタカナを漢字に直したとき、その漢字の部首名を、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 父は毎朝、新ブンをていねいに読む。
- ② 左キきの少年は野球部に入った。
- ③ 日本人はギョウ列に並ぶのが好きだ。
- ④ 家族に合格をイワつてもらった。
- ⑤ イのあたりがきりきりと痛む。

- 6 次の①～⑤の文の——線をつけたカタカナを、漢字に直しなさい。

- ① アマダれの音を聞く。
- ② 店の人の説明がナットクできない。
- ③ この薬は頭痛によくキク。
- ④ 定年で会社をやめる。
- ⑤ ゴウインなやり方はきらわれる。

【問題は、ここで終わりです】

